

資産運用レポート：壊れたIPO（2021年版）

1 はじめに

下図は、2005年4月にIPOを行ったGMOペイメントゲートウェイ（3769）の週足チャートです。

奇しくも小型株が活況を呈していた時期に上場した同社は、絵に描いたような初値天井となっていました。

その後も株価は一向に下げ止まらず、2007年から2009年にかけて100円（株式分割修正済）を割り込む時期もありました。安値は78円。高値の1,562円から1/20にまで下げてしまったのです。

別に業績が悪かった訳ではありません。同社の収益は、2008年秋のリーマンショック後も増収増益ペースを堅持していました。

どうして、このような悲劇が起こったのでしょうか？

手元の会社四季報2006年夏号では、同社株の予想PERは91.4倍。投資家の期待があまりにも高すぎたところに、2006年1月のライブドア・ショックに起因する新興市場の崩壊が直撃して、株価の値下がりに拍車をかけてしまったと想定されます。

米国のバリュウ投資家、ポール・ソンキンが「壊れたIPO」と呼んでいる現象です。

★GMOペイメントゲートウェイ 週足チャート（2005年4月～2010年12月）

